

漢字の導入・練習・声かけなど

モーリス米澤みどり（元デトロイト・サンフランシスコ補習校、現：北部カリフォルニア日米協会）

★導入について

生徒に手を挙げさせ、教師が生徒に背を向けて空書してまねさせると、生徒が空書している様子が確認できないので、少しでも生徒が見えるようにしました。

導入する漢字・漢字語（1字ずつのもの、熟語や活用語尾のある言葉）のフラッシュカードを作っておき、生徒が読めるように向けて、手を挙げさせます。1字ずつのカードは、教師は生徒の顔を見ながら、カードの漢字を筆順どおりに指でなぞっていき、空書させます。教師はカードを見ないでなぞるので、なぞるときずれることもあります。生徒の空書の様子はよく見えます。そして、空書しないものも読ませ、次の1字のカードを空書、をくりかえします。また、カードは最初に見せるカードを一番下、最後に見せるカードを一番上になるように重ねておくと、次に見せるカードをいちいち前に回って確認しなくてもよくなります（薄いカードなら透けて見えるし、厚めのカードなら裏に鉛筆書きで書いておくと一目で確認できます）。

★練習について

①読みを覚えるのが先なので、シャッフルしたフラッシュカードを読ませるほか、簡単なゲームをします。まず、その日（課、章など）の漢字語（漢語、漢語ではないけれど漢字を組み合わせた言葉、活用語尾のある言葉、固有名詞など）に番号をつけたリストを作っておきます。スクリーンに映し、教師はランダムに漢字語を読み、生徒に探させて番号を言わせます。速く見つける競争にもなりますが、全部は覚えていないという生徒は、覚えている漢字語を見つけておいて、その漢字語が読まれたらすぐ答えるということもできます。そのあと、ペアや3人グループで同じようにさせます。1人が読んで、もう一人が番号を言います。覚えていない生徒を助けたり、3人グループでは番号を言う2人の競争になったりすることもよくあります。（一つ目の例はノンネイティブ用の教科書から、二つ目の例は補習校の歴史教科書から）

げんき 18課

1. 地図
2. 食堂
3. 貸す
4. 映画館
5. 宿題
6. 授業
7. 目的
8. 終わる
9. 試験
10. 旅館
11. 洋服
12. 図書館
13. 目
14. 服
15. カ

1. 貴族 2. 天台宗 3. 枕草子 4. 竹取物語
5. 和歌 6. 紫式部 7. 鳳凰堂 8. 国風文化
9. 影響 10. 随筆 11. 風土 12. 阿弥陀堂
13. 漢文 14. 念仏 15. 物語 16. 平安時代
17. 高麗 18. 絹 19. 真言宗 20. 源氏物語
21. 宋 22. 唐 23. 大宰府 24. 日宋貿易
25. 紀貫之 26. 浄土信仰 27. 阿弥陀如来
28. 平等院 29. 仮名文字 30. 古今和歌集
31. 極楽浄土 32. 清少納言

②読みを答える漢字テスト（10問）では、リストをスクリーンに映したままで、9問は問題用紙に書いてある漢字語の読みを書き、10問目はリストの中から好きなもの（確実に覚えているもの）を選んで番号と読みを書くように指示します。

漢字テスト（国風文化） /20 氏名 _____

読み方をひらがなで書きなさい。

絹		影響	
唐		紫式部	
貴族		平安時代	
随筆		清少納言	
和歌			

③送りがなが同じ漢字語をカフトで見せ、教師が言ったものを選ばせます。常用漢字表からリストを作りました。

★生徒への声かけなど

漢字は使わなければ忘れるのは当たり前。忘れた時に自分を責めない、落ち込まない。忘れたらまた覚えればいだけ。2回目、3回目に覚える時は、初めて覚えた時よりも短い時間で覚えられる。

筆記用具や紙がなくても、机の上や手のひらに「書いて」みると練習になる。長さや突き抜けなどの違いで別の漢字になることもあるので、最終確認は必要。

教科書の漢字にふりがなをつけておきたい時は、鉛筆を使う。数学・社会・理科など横書きの文章では漢字の下、国語など縦書きの文章では漢字の左側にふりがなをつけておき、紙で隠して読んでみて、読めるかどうか確認しながら、紙をずらしながら読む。読めるようになったら、ふりがなを消す。（ノンネイティブ向けの日本語の教科書ではふりがながついている場合、漢字の下・左についているものが多い）